

Radio On The Street
西谷文和

2022.9.14
第13号



発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。

●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YOU TUBEで聞けます。チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。



国会前はもちろん、全国各地で大規模な抗議集会が、これが民意だ

安倍元首相がもたらした国益とは
国益どころか国損だ

国葬は完全に破綻している
9月27日に予定されている国葬は、完全に破綻している。まず、どの世論調査でも（産経新聞でさえも）反対が賛成を上回っている。これでは「国を挙げての」葬儀にはなり得ない。次に国葬は法律で定められたものではないので、例外的なものである。国葬令が失効した戦後で、該当者は吉田茂のみ。つまり安倍元首相に、「吉田茂に匹敵、あるいは凌駕するほどの国益」があったという国民的評価が確定しないと、例外的に執り行うことはできない。

国葬反対運動を岸田倒閣運動へ

一体何か？ マリオになってブラジルまで行き、オリンピックを招致したとか？ 14回もゴルフした加計孝太郎にだけ獣医学部新設を認めてあげたことか？ 地元下関市の後援会員を「桜を見る会」に招待し、格安の前夜祭パーティーを開いてあげたことか？ それともトランプ大統領とゴルフして、戦闘機の爆買いを約束。つまりアメリカのみつぐ君になったことか？ これらは全て「国損」である。国を丸ごと私物化して、税金を浪費した安倍元首相。その葬儀を税金で行う。例えるならば、高価なツボを買わされた上に、何十万円もの印鑑を売りつけられている。私たちは今、そんな状況の中にいる。

教団の教えと極右思想は正反対

そもそも安倍元首相は「美しい国、日本」と叫び、韓国や中国を卑下して、不必要に緊張を高めてきた極右の政治家だった。一方、統一教会は韓国をアダム、日本をエバ国と規定している。禁断の実をまずエバが食べたので堕落した。そしてエバの女性是一段低い存在なので、エバ国の日本がアダム国の韓国に献金する。この理屈で日本人信者（主に女性）に献金させ、合同結婚式で韓国男性と結婚させていた。これ、極右の政治家が一番嫌うイデオロギーではな

いか。そんな統一教会と「ズブズブの関係」を作ってきたのが安倍元首相。街頭で「こんな人たちに負けるわけにはいかない！」と絶叫した、「こんな政治家」の葬儀をなぜ国を挙げてやらないといけないのか！

沖縄知事選勝利で流れを変えよう

さすがに国民の怒りが高まり、原稿執筆時点（9月5日）で国会前でのデモを始め各地で抗議集会が開催され、強引に国葬を進める岸田内閣の支持率も急落している。国会も開かず、拙速に国葬を決めた岸田内閣8月に入って大臣や自民党幹部の統一教会との癒着が次々と暴かれ、「国葬を強行しても地獄、中止しても地獄」の状態になった。残念ながらあと3年は国政選挙がない。しかし沖縄知事選挙では基地推進候補が統一教会と癒着していたのがばれて失速。基地反対の玉城デニー候補が勝利するだろう。来年の地方選挙もこの統一教会と国葬強行問題がボデイブローのように響いてくるのは間違いない。今度こそ立憲野党と市民が共闘し「岸田内閣打倒、次こそ政権交代」という運動につなげないといけない。路上のラジオでは「そんな展望、希望が持てる対談」を発信していく予定。引き続きのご愛聴と叱咤激励をお願いしたい。

小出先生に聞く その8 原発がグリーンって本当？

ミサイルが当たれば壊れる

——ウクライナの戦争で今、改めて原発の危険性がクローズアップされています。念のためにお聞きしますが、ミサイルが当たれば原子炉は潰れますよね？

小出 はい。

——都合のいい時は「原発は安全だ」と言いながら、戦争になれば「核を持って」ってハナから矛盾してませんか？

小出 論理が全く通っていませんね。

——一方で「原発は地球温暖化ストップの切り札」と、再稼働の動きが強まっています。EU（ヨーロッパ連合）が、持続可能でグリーンな発電方法を分類しているのですが、なんと原発をグリーンの方に分類してしまいました。本当に原発はグリーンなのですか？

小出 もちろん、違います。今、世界中の人々が地球温暖化の原因は二酸化炭素である、と言います。しかし私自身は地球温暖化と二酸化炭素は関係ないと思っています。「二酸化炭素が猛烈に悪い」と思い込ませ

れているわけですが、二酸化炭素は植物が生きるために必要なものです。

絶対に危険な「死の灰」

——光合成ですね。

小出 はい。植物は光合成で生きていくわけで、二酸化炭素がなければ命を支えることができません。逆に原発をやれば、二酸化炭素は作らないとしても、大量の「死の灰」を作るわけです。

——そうですね。

小出 「死の灰」は決定的に生命体に対する毒物であることがわかって



持てば持つほど危険な事態に

います。生命体にとって絶対に必要な二酸化炭素が悪く、生命体にとって絶対に危険な「死の灰」がい

い、なんてことは初めから間違えているのです。EUが「原子力の方がクリーンだ」と言っているのは全くおかしい主張だと思っています。

——例えば放射性廃棄物を地面に埋めて10万年管理しないといけない、というのはまさに持続可能ではないですね。

小出 全て未来の人たちに重荷を押し付けて行くことになります。

ヨーロッパにも原発マフィア

——EUの中でフランスやフィンランドが原発をグリーンに分類することに賛成、ドイツ、スペイン、オーストリアは反対しているようです。背景には欧州にも原子力マフィアがいる、ということですか？

小出 はい。多分そうだと思います。フランスやイギリスなどは原子力産業が強大で、この利権を守るために、影響力を発揮しているのだと思います。

——モンゴルのウラン鉱山を取材したのですが、地下400メートルの穴を掘っていました。地中深くに眠ってこれているウランを原発のため

に掘り出してしまった。これが元々の間違いではないでしょうか？

小出 そうです。ウランは原発で核分裂させてしまえば、放射能の量が1億倍になります。

原発が動けば放射能は1億倍！

——それ、本当にビックリします。

使用前の核燃料棒から出る放射能を1とすると、使用後、つまり使用済

み核燃料棒から出る放射能は1億！

小出 核分裂したその時点で1億倍に。「死の灰」は約200種類の放射性物質の集合体なのですが、寿命の長いものも短いものもあります。できたときは1億倍ですが、寿命の短いものは早い段階で消えていきます。例えばセシウム137は半分に減るまで30年かかるし、ヨウ素129は半分に減るまで1600万年かかります。

——1600年ではなく、1600万年！

小出 途方もなく長い期間、毒物が残ります。もともとウランそのものも放射性物質です。放射性物質は何であつても生命体にとって有害です。ウランを核分裂させるさせないに関わらず、ウランを地底から引きずり出した時点から、脅威が始まるという事です。（その9に続く）

アフガン最新取材報告

8月10日から20日、首都カブールと東部ジャラバードに入った。私は2009年から22年まで、13年にわたって人々の生活をウオッチしているが、今回が最悪。このまま放置すれば氷点下10度以下になる冬に多数の餓死者、凍死者を出してしまうことになる。タリバン政権になってちょうど1年。国際人道支援が急減し、食事にありつけない、仕事がない、女性は外出できない、という困窮状態。街で目立っているのは銃を担いだタリバン兵と物乞いの子どもたち、そしてカブール川の橋の下にはあふれるほどの麻薬中毒者……。そう、アフガニスタンという国が壊れかけているのだ。

給与は兵士だけに

宿泊したホテルの窓からタリバン兵の訓練の様子が見えた。(写真1)
タリバンは兵士には給料を支払うのだが、学校の先生や病院の医師、看護師には給与を払っていない。そし

て最近では人がたくさん集まるところ、モスクや学校でテロが頻発する。ハザラ人は少数民族でイスラム教シニア派。以前から迫害されてきたのだが、タリバン政権になってさらに危険度を増している。スンニ派のIS(イスラム国)やタリバン過激派



1. タリバン兵の訓練が見えた



2. 父と息子を殺された、左の青年は重症



3. 12年前、カマの取水口で

高校生の約1万2千人が通う公立校だ。校舎は日本のJICAが建てた。22年4月19日午前9時半、早朝授業を終えた男子高校生が下校中のことだった。1回目の爆発が高校生を襲った。慌てて駆けつけた先生と父兄たち。そこに2回目の爆発が起きた。

前日の大雨で堰は川底に沈んでいたが、しっかりと暴れ川の水を用水路に引き込んでいた。(写真4)その後カマでも奇跡が起きた。砂漠が

奇跡を起こした中村さん



4. 取水口の今。暴れ川の水を見事に引き込んでいる



5. 砂漠の黄色と森の緑が感動的

9名が死亡、40名以上が重傷を負った。遺族に集まってもらい、日本からの支援金を手渡した後、写真撮影。(写真2)左の青年は辛うじて生き残ったが、介助なしには登校できない。

ハザラ人地域の学校を訪問

アブドラ・シャーム校は小、中、

ジャララバードへ

カブールからジャララバードまでは車で5時間程度。中村さんが建設されたカマの取水口へ。中村さんに案内してもらってこの場所に来たのが12年前。暴れ川のクナルをどのように手なずけて堰を作るか。これが大変な難工事だった。中村さんはスタスタと建設現場に歩いて行く。地元村長や町長が近づいてきて握手。(写真3)みんな嬉しそうだった。

ジャララバードの街は貧困にあえいでいた。アリ・ラフマンさん(56)宅を訪問。ラフマンさんと9人の子どもが玄関で待っている。(写真5) 11人の子どものうち娘が

貧困家庭を訪問

「水で戻してあげればいい」。あの時の中村さんの言葉を噛みしめる。水で難民を農民に戻す。水で戦争を平和に戻す。「戻す」には2通りの意味があったのだ。

(写真4)

緑になって人々はピクニックを楽しんでいる。中村さんが最初に建設したマルワリード用水路へ。ここでドローン飛ばす。20年前の黄色い大地と用水路がもたらした緑の現在。



6. 8番目、8歳の娘を売ってしまった

「8番目の娘ハフサー(8)を、近所の金持ちに。2万アフガニーで」
2万アフガニーは約3万円。女性
は働くことのできないアフガン。
日々の生活に困窮した結果だ。「年
老いた父と、弟が1人だけ。これで
どうやって生活するの? 1年分の家
賃5千アフガニー(8千円程度)を
払わないといけなかったの」。ブル
カの下から長女(20)が訴える。
「まだ前政権では食べるものにあり
つけたわ。今は毎日の食事にも事欠

10人、そのうち3人が障害を持つて
いる。妻は2人を病院に連れて行っ
て不在だった。
— あなたは子どもを売ったのですか?
「はい。タリバン政権になってすぐ」
— いくらで? 誰を?



7. 殺気立つ群衆。なんとかならないのか



8. タリバンになって中毒者が3倍に急増

国道の中央分離帯には麻薬中毒者の群れ。(写真7) アフガンは世界のケシ90%以上を生産する。仕事も希望も失った人々にハシシ(麻薬)が流行する。タリバン政権にな

麻薬が人々を蝕んでいく

退散しよう。通訳に促され、車に乗
り込み逃げるように立ち去る。カメ
ラと所持金を奪われても不思議では
なかった。それくらい人々は飢えて
いる。

食料の配給を待つ人々の群れ。カメ
ラを向けてインタビューを始める
とたちまち群衆に取り囲まれた。(写
真6) 人々は怒りの表情で叫び始め
る。「食べ物がないんだ」「俺たちに
仕事を!」。ニシ、危ないぞ。早く

いているの」。
長女の訴えを聞き
ながらラフマンさん
に尋ねる。
**もう1人売るつ
もり**
— この状態が続けば、
もう1人売るのは?
「はい。それしか
道はありません」
絶望感に打ちひし
がれながら、街の中
心部へ戻る。道中、

アフガンで32年間、地雷被害者に
寄り添っているイタリア人医師、ア
ルベルトさんの言葉が心に残る。
「どうかみなさん、アフガニスタ
ンを忘れないでください」。

タリバン政権から1年目の8月15
日。この日は祝日となったが、盛大
な式典は開催されなかった。表向き
は「テロが入るかもしれない」だっ
たが、実際は「誰も祝おうとしな
い」からだ。いったいアフガニスタ
ンはどこに向かうのか?

アフガンを忘れないで

ジャララバードからカブールに戻
る。この日、勇気ある女性たちは
「仕事、食料、自由」を叫びながら
行進した。タリバンはこのデモに発
砲。幸い死者は出なかったがデモ参
加者は怪我を負った。そしてこの模
様を撮影していたアメリカ人ジャー
ナリストが拘束された。

勇気ある女性たちにタリバンが発砲

って中毒者が3倍に増えた。首都カ
ブールでは、タリバンは「中毒者狩
り」を行なつて、彼らをシエルター
に放り込み、外国人ジャーナリスト
の目に触れないようにしている。ジ
ャララバードではまだ手が回らず、
野放しのようなのだ。

統一教会、国葬、東京五輪。 「アベノフタ」が取れてピンチ迎えた岸田政権

パンドラは箱ではなくツボだった

「パンドラの箱が開いた」とよく言いますが、これはギリシャ神話で全能の神ゼウスがパンドラに与えた箱。絶対に開けてはいけない、と言われていたのを開けてしまった、中からはあらゆる災い、疫病や犯罪などが出てきた、というものです。オリジナルの話では、パンドラが開けたのは、箱ではなくツボだった（苦笑）のです。日本では今、「統一教会のツボ」に栓をしていた「アベノフタ」が取れて、ツボから汚い議員がゾロゾロと出てきた…。今、こんな状態です。

無言電話が3万本

ジャーナリストの佐藤章さん、鈴木エイトさんがラジオでも述べていますが、安倍元総理の影響力があまりにも大きかったので、「統一教会の犯罪」が大手メディアで報道されてこなかったのです。過去には教団を批判したテレビ局に無言電話が3万本もかかってきたり、ジャーナリストをいきなり殴ったり、反社会的な

ルト集団特有の嫌がらせをしてきたので、テレビ局側も「面倒なやつらだな」と思っていたでしょう。その上に2013年以降の安倍一強時代で、自粛・忖度が働いて、宗教2世や霊感商法、合同結婚被害者たちの問題がほとんど報道されないまま「空白の30年」が生まれてしまったのです。

マスコミもようやく本腰を

鈴木エイトさんは「ようやくメディアが本気で取り組んでくれるようになった」と言います。安倍一強時代、テレビ局の現場にはモリカケ桜など追求すべきネタが満載なのにも関わらず、アベスガとメディア幹部の馴れ合いによって、「報道できなかっ



高橋とAOKIの関係だけではない。セガサミーとスガ、森の関係もある

た悔し

さ」があります。だからこそ統一教会は見逃せない。こうした空気があるのです。引き続きこのペースで報道を続けてほしい。岸田首相は国葬で誤魔化そうとしましたが、これは火に油。国民の怒りが充満しているところに、新たな火が吹き出しました。東京五輪疑惑です。

疑惑のデパート東京五輪

電通の元専務、高橋治之が受託収賄で逮捕。AOKIに続いてKADOKAWA、大阪の広告代理店「大広」に捜査の手が伸びています。そしてついに首相経験者の森喜朗が事情聴取を受けるまでに。森喜朗元首相がAOKIから見舞金200万円を受け取ったという疑惑です。この背後にはもっと大きな疑惑があります。

嘉納治五郎財団があるから

時は2013年、東京を勝たせるためにスガ官房長官が「アフリカ人を買収しないといけない。4〜5億円必要。これだけの金を用意できるのは会長しかいない」とセガサミ

ーの里見会長へ。里見会長は「大きな金。このご時世ダメだろう？」と返すと、「嘉納治五郎財団というのがありません。ここを迂回すれば大丈夫」とスガ。そして実際にセガサミーから嘉納治五郎財団に2億円が振り込まれます。そしてこの嘉納治五郎財団の代表理事こそが森喜朗なのです。柔道の嘉納治五郎財団はこのように裏金をマネーロンダリングする手段として使われました。こうした得体のしれない金を差配してバッハなどのIOC委員に配っていたのが電通顧問の高橋治之だったのです。

奮闘せよ、検察とマスコミ

今までは「アベノフタ」があり検察は動きにくく、マスコミには「電通タブー」があったので、公然の秘密が大きく報道されてきませんでした。

アベノフタが取れて、今や電通の疑惑、人件費を中抜きしたパソナの疑惑が浮上して、あの竹中平蔵もピンチを迎えているという状況です。ここは検察に頑張ってもらって元首相経験者を、それも2人、逮捕してほしいものです。

本当なら凶弾に倒れたあの政治家が「フタの責任」を取らないとダメなのですが。

(この項を含め本ニュースは全て敬称略)

編集長より

エリザベス女王の逝去が発表された直後に、バッキンガム宮殿とウインザー城にふたつの虹が架ったといえます。ゆかりの地であることから、女王と、前年に逝去したフィリップ王配の虹のようだと、多くの人々が空を仰ぎ、安らかな眠りを祈ったと伝えられました。

人は生きていると時折、奇跡のような場面にめぐり逢います。そんな時には、目に見えない大きな力に支配されているかのように感じる場合があります。科学や経験の上に立っては説明が付かないそれにすがってみれば、日々の苦しみが和らぐようで、時に人は宗教に身を寄せるのかもしれません。

宗教といえば、安倍元首相銃撃をきっかけに、統一教会など

カルト宗教問題が再燃しています。今こそ膿を出し切ってほしいものですが、靈感商法による生活困窮などでこれまで多くの命が犠牲になっても規制どころか庇護し続けた政治家が、元首相という一人の死で初めて動き出すといった野放図には開いた口が塞がりません。(ましてや国葬とは・国会議員は英雄ではなくただ国民の信託による代表に過ぎないというのです。)

ともあれ、いかなる場合にも宗教の自由は侵されてはならないわけですが、本来は命を尊び、心豊かな暮らしを築くための宗教が、醜い争いを生み、人を殺め、富を貪るのだとすれば、それらは尊ばれるものであるはずもなく、現代社会の病理を映した悪魔でしかないでしょう。

そんな荒んだ世に身を置き息苦しい中では、そうそう穏やかな心でいられないかもしれません。が、冒頭で記したような奇跡は、きつと起こるべくして起きたものだと思います。それが懸命に生きた人にだけ授かるやさしい思いなのだと思えば、それを受け取った人は、今度は誰かにそのやさしさを捧げようと思えるかもしれません。ただそんなところに心の拠り所を求めることがでるならば、幸せなことだと思えます。

今年の夏、仕事に煮詰まり苦しみがいていた私は、ある日、亡母が好きだった庭を無心に手入れしていました。その時、ずっと野放しにしていた草木の弦の先に、見慣れない花を見つけました。調べてみればそれは

「ヒオウギ」といい、祇園祭の時期に床の間に飾ることもある「厄除けの花」とのことでした。越して来て5年、この時を選んで初めて咲いたこの花に、見守ってくれている母の息遣いを感じながら、もうひとふんばりと思えた晩夏の夕暮れでした。

(ディレクター・山本 素)



ファンクラブニュース 読者限定 DVDプレゼント

22年8月のアフガニスタン取材で撮影した映像をDVDにしました。ジャララバード編とカブール編を合わせて50分。タリバン政権下で苦しむ人々、中村さんの用水路の今などをご家族や職場、地域などでご覧いただき、反戦平和の運動に活かしてもらえれば幸いです。

DVDをご希望の方は、

メール nishinishi@r3.dion.ne.jp か

電話 06-6170-4757 まで

お願いいたします。後日郵送します。



編集後記

10月中旬からウクライナに旅立つ予定です。私も還暦をすぎましたので、あまり無理はせずに、安全と健康に留意して慎重にいきます。8年前、首都キエフに入りました。思えばあの時からずっとウクライナとロシアは戦争をしているのです。ロシアのプーチンはロシア正教会と癒着した関係にあるようです。プーチンは宗教をバックにした大口ロシア主義者で民族差別主義者です。亡くなった元首相も宗教をバックにした極右政治家でした。「ウラジーミル、君と僕は同じ夢を見ている」と、気色悪い演説をして27回会いましたが、北方領土は1ミリも帰ってきません。実はあのトランプ前大統領もキリスト教右派の票で勝ち上がりました。権力者が選挙に勝つために宗教を取り込んだ結果、大きく歪んでしまう社会。ウクライナではその点についても取材してみたいな一と考えています。